

^ 13
3825



天寶本濟勢力傳

天寶本濟勢力傳

門 13
號 3825
卷

天寶水滸勢カ傳全編附言

元人羅貫本中云 百零八の草賊とりて天罡地煞星不配言人梁山泊不

集合しりて即水滸と題号せしと和漢今昔神史中の魁本より此と

の著者ありしと今もこの遺書や通信繪本合巻するや和解するは婦知

近年の暴行兇を指して水滸傳と稱ふたり此とりて水滸の号の

倍耳不並さあし不因数不も足らぬ小賊の事跡を聊録して其の

水滸と号する冊子の傳勢も蓋毫も水邊不擬あるは非を嘗

盜賊の欲する所大同小異ありといふとも魔行彼此似つればあらん

遮莫多勇い彼不及たは彼亦此不及たなりあるべし此小傳也又

然り數十徒の破落戸們悪行各競あれは勇猛寔不愉快あり

且境界と銚子港坂東太郎の兩岸かれは則水の滸あり亦聖

語不事わかあしと羨不摸しと羨し是九常の一行ありて人

天寶水滸

保ちて寶とよ人保ちて寶と為へ天下国家の寶を人這條とりて
 推くたれ天寶水滸の題号も空しくくまと言もせ人歎

嘉三平甲寅西夏編成 鈴亭吉我誌



上巻目録

- 第一回 笹川小相撲真行の事
- 第二回 勢方富五郎神樂獅子と懲と事
- 第三回 繁藏助五郎と不快の事
- 第四回 勢力平手造酒を救ふ事
- 第五回 富五郎神媒とある事
- 第六回 繁藏助五郎の色盆を荒さ事
- 第七回 繁藏們飯岡(乱入)ある事



乙彦 印 南

勢力とある事 富五郎



子色
故守拙

岩瀬
繁藏

神樂
獅子
大八



飯田の
助五郎

洲の奇
政吉

大正九年



相模元祖

大野見宿禰命

下総国

香取郡

笹川の

鎮守

諏訪

明神の

境内に

建了

牙の

碑

野見宿禰と天穂日命十四世の
 孫あり虫仁帝の朝に仕えて忠勇に義の
 譽あり殉死と止めて人形と造りしより始て
 土師の姓を賜ふ世官原の祖あり

大野水滸勢方傳全卷之上

江戸 鈴亭言哉補録

第一回 進川小相模真行の事

人皇立十八代光孝天皇御宇の仁化二年秋七月廿七日の事と云ふに
 武家屋敷小出所へ勅命下りしに、たね小出所と云ふ所の御孫、
 形と云ふ名に、さかひて、擇抜てその名と異し、角能と取らば、
 人土儀入不西来と云ふ御子の、遊湯をさし、たねと云ふ御孫、
 せぬ心か痛め、後まの、旗士の、たねと云ふ御孫、
 あくその、ひま、みと、さかひ、の、たね、
 枝も、後まの、を、血、ふ、れ、
 川を、ひ、村、小、出、せ、
 人、あ、る、の、う、え、
 天正水滸上

さてこの寺に上りて来たる所にて合してこの碑を建て其の裏におくべきと云ふ
 をて造せしむる事と云ふ事此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 備へ公事なりけり此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 若事して地方へ這出の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ちかんと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 事いひ申へば此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 らんは此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

第二回

勅力富五郎神樂獅子と徳と事

の日代行々々々の用きとて悪徳を擲ちおとの徳と事
 の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 此の神合への事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事



神楽師
大八



もま
雨力
あつあつ
の
み
た
嵐堂

勢
力
大
八

大八

大八

ちゆのちゆをうらむ人かうく徳をせざる事よと所て大八あざうらひ竹十をうらむ烟とも
 雲うらむうらむるに流るる徳徳れと自ら春の汗さへ雲も積るをうらむの雲念
 小夜もくやと流るる事よと所て大八あざうらひ竹十をうらむ烟とも
 雲うらむうらむるに流るる徳徳れと自ら春の汗さへ雲も積るをうらむの雲念
 小夜もくやと流るる事よと所て大八あざうらひ竹十をうらむ烟とも
 雲うらむうらむるに流るる徳徳れと自ら春の汗さへ雲も積るをうらむの雲念

閑拙そく群集の目わ勢力の浮動のそと量くと大雲うらむものうけり

第三回 繁葉若助五席く不決の事

まよ助五席へたのこころうらむ神来柳子大八あざうらひ竹十をうらむ烟とも
 雲うらむうらむるに流るる徳徳れと自ら春の汗さへ雲も積るをうらむの雲念
 小夜もくやと流るる事よと所て大八あざうらひ竹十をうらむ烟とも
 雲うらむうらむるに流るる徳徳れと自ら春の汗さへ雲も積るをうらむの雲念
 小夜もくやと流るる事よと所て大八あざうらひ竹十をうらむ烟とも
 雲うらむうらむるに流るる徳徳れと自ら春の汗さへ雲も積るをうらむの雲念



子
五

新
川
ハ
ル
カ
キ
カ
ル

五
五
五



五
五
五

わ
さ
が
ち
の
木
橋
と
せ
の
わ
さ
の
尚
白
う
た

ほ
と
う
の
こ
ら
ん

五
五
五

五
五
五



筒振くこのとみ人勢大命入り味まき...
のこしてぞ取りぬくもと小松若の云をて一聴てわさひに推ども
が化しに上とせのまらつる再來あは朝しやうんと候てありと云あま
を助五席の向ちあて念も用うねバ本まぬかひて翌朝す利七と
つらへも小松若の世あうりあうりのあふも外よりと子呂羽計勇
者うり所て利七の氣と其様ども病とわさせんうさふれバ勇若
むらひてのやう。昨日といひらふとゆひ我おがうまづき来つるに和次を
さうらへんあてあり助五席らん後ら筒振くと事も同じで勇若を
雲を一の面白くもあは長に上とまらうりそはと兼知ありつらうら
若もせんを方は助若うらまてうらおあうらうら一懸きまは再昨
とと嘲罵られて利七とてうらまて助若とせが和次の後あふ掩うら
怒りて行くせんともひれしうらまて和次とてさうらうら

おんより取れたのむせよ又とそあめといひまて。玄くまども無氣かさう
む勇若が法弁の答のまのむき如此くと助五席ふりのがうらわら
和次もとまきうらと控このうらわも和次ゆりまあ助五席と候受けと嘲罵
ん心とうり難し。時このまうらうら候あきねと取わさまは是よりぞ
取らうら決ふらあてと年角のまのひとさうらふける。時助五席が和次
の家さうの繁秀の小室あうらこのと和次繁秀の例に富五席をうらわの
とらえうらうらひらせうらまきお折わくも和次繁秀の例に富五席の
おのむきとまはうらうらまきお折わくも和次繁秀の例に富五席の

第四回 物かり平の造酒を救ふ事

一々儀を奉りて送地小室五市来てなまほ彼哥々ふあてりてきんと
 工地人門あふりて勢力不考らくと備のうと告あじ和後このま
 一うは五市をのうてどく色益と考ちり子品不あげて後てうらふ
 かむきつ双方と考あめ忽地小和睡ふあふひく六村人春候おふくこ
 あくむぞ骨とりと附せんか則室五市と相伴ひ教陰屋とふび似
 一う割意あふおもひきて後くの隙とあふ酒と考あてのてあくは
 物う鳴りむむひある亭上ふひとりり客人あり武士あきとも旅深き
 旅の客は返禮人あふべしや碎る形あはるまふふか面く武士
 一人づづまきあて入あるりのわりひたり八分の太く尺あふり既發あふが
 孝くして日月むむりあふき若ふ仰てまど筋骨あつり下けきあか
 遺尾介套野袴のひらふ不条鞠の長緩りよとて後之二個の壮士
 們が出入りして金銀もあふ彼浪人のうこりと遊るうとも青免

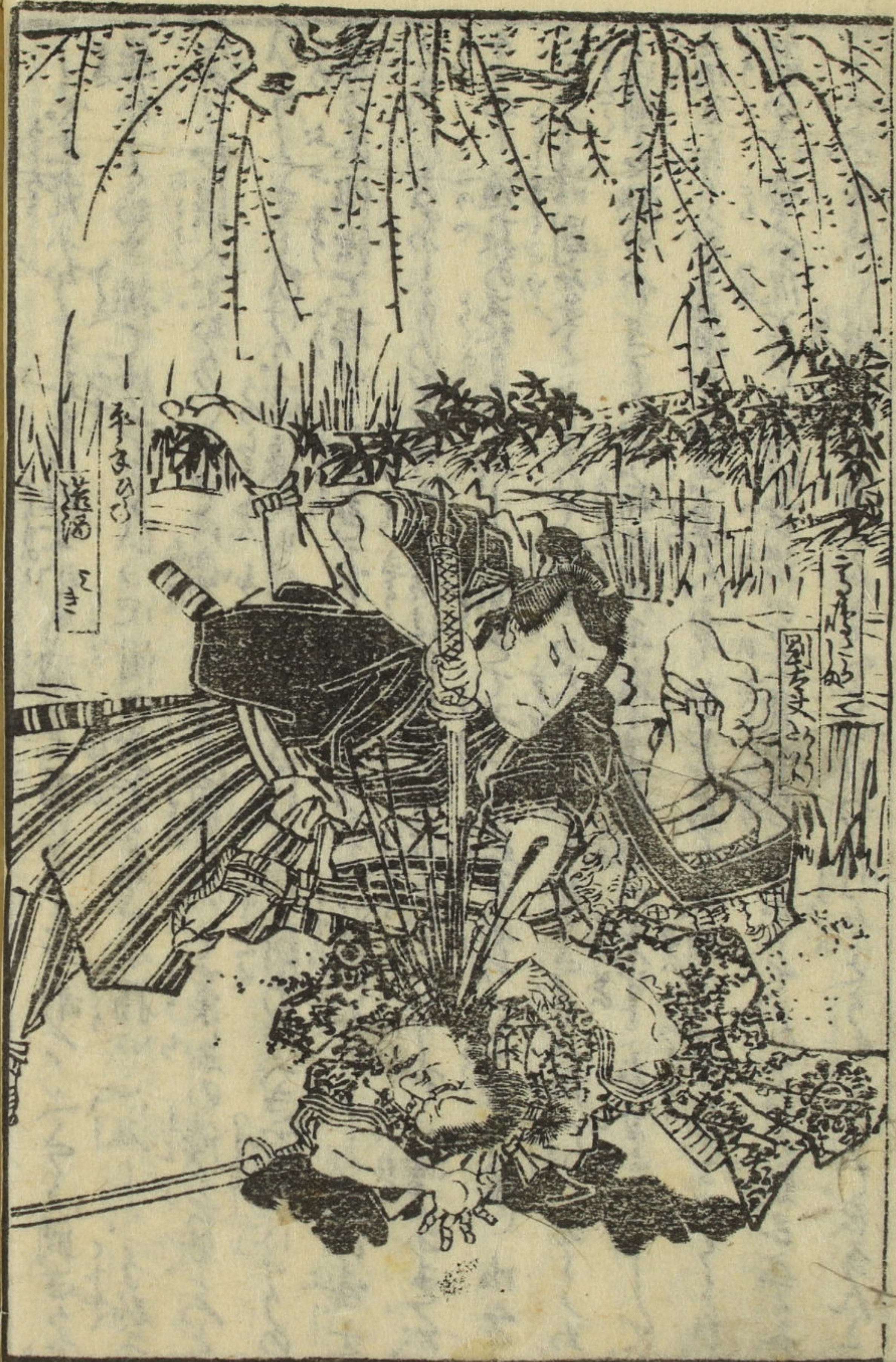
一く上赤ふあをまは壮士們も減すとおせんまやあふくつ酒さる
 後うくむき排て放つらひつに個の武士あふ小指のし海くもめめ
 たのむ浪人とあふくはて嘲るあふ人自己のく兼知の傍か云飲らと
 ひうくまきひけり彼浪人も形をむさけま二酒あふべき面鏡にうの
 若う不他法と怒る面色も小二とふびを酒代とくう一那の武士
 といひはらあふものぞ婢女が恰仕の若さまも酒家とらがふ町草あまは
 ちゆ一運家のたふあふと一同きて小二と然をみかあふ事と儀はさ
 こそそ淨別をまとせられて劍術の大せけこつたうくく八内門人あふめ
 南國に遊の小きとあり南徳州不遠くまを那のせけまを刀うちうて
 一府さあふあふ者らあふき達人あてあふとありと听て浪人あきうひ
 能あふき徳あふれうきしは夜後の英惠と定本わて人と見人聚るを
 こと不六まこつ後行が足くあふくとゆひつ町々とうちうひあふんと



天竺水許止

雄力
の
ま
り

行のまじ
ちり
の
ま
り



天竺水許止

平子
の
ま
り

雄力
の
ま
り

まつと別を又聞うれそ
 門人ホト去振おせさうく
 てこの個の才子ハ浪人の
 茶後ハまてイマまて色よ
 和服おちるとは中ぶお尋
 ましませこのおひくめ
 と是は同者おひくとハ浪人自若
 とく、ナレハせよハ後ガまて
 同をきてこの個ハはとせろハれハ
 隙ハありと所て原ハ
 儀とありとらとをれ
 ありとハ隙と地お對と



先中様をりうろろ思云
 と暗く汝おが拙技原
 通お行くとて止め
 らるる俺あうまど
 岡よりこの時別をま
 怒氣憤然といそがま
 刀捨とりおどり出槍窮士が毫むろりの
 あま酒お碑りうろろそたご云ぬさびあさ
 眼とみたり思つる面と浪人と目んてうち安ひ和どの劍法原
 ありとハ酒家もき力ささうろろハかぬハ潮あささうろろ人ヤ立合ん
 とあまの推搦ハせどまめくこれハ陸奥の浪人奉多造酒とりのありと
 之を別をまらまづきて然ハハと刀ぬきうけると造酒の奉多と推搦ハは是処



五でふとどしとあるが亭きさぐりく運感とどし。流とふびく岷杭を交せん。
 志うし後小遠備を死たぐひ小一院書と送きし。と听て別を更一系不及
 を以て兩個ひくく徳めぬ。送と二枚意多ふさく。是を村汲人小相届け
 上和さく後の院人どくひもむむむ兩個ともひびくくち交とくか。面
 物さるのく。造洒の鶴より猫物やとくも碎てよりく。足さくもさくま
 らぬ。うく。信事と同敷せんとて。集令て。法人の威造洒とわさく。命さく。信の
 庭漢よとと。らぬりのひさるけり。南下る。信別を更の造洒が碎とて悔りて。
 一打と破つけと。造洒の関りと身と友と。信煉のと。業をの。海らとととと
 携ひふ。け。奴さく。奴さく。名ふか。人の別を更も。案系と。孩きあ。マてく。
 うろく。遠とけさく。やと。造洒がつけ。入。女の。下。血り。や。立てと。さく。一。ま。が。鮮。ハ
 地と。小。作。ま。ら。る。この。為。信。小。二。個。の。身。子。ハ。原。通。の。仇。の。さ。下。と。接。つ。ま。て
 吹く。さ。お。く。く。見。物。の。人。か。一。ま。は。て。ま。く。五。六。人。の。は。さ。と。も。大。地。土。地。の。め。の。小

一と別を更が人か。一と。ま。く。刀。抜。會。つ。造。洒。當。ひ。と。と。り。こ。め。て。我。ら。ち
 と。え。ん。と。是。け。が。借。使。技。術。小。長。と。信。骨。一。く。小。相。款。ハ。交。換。か。い。と。さ。く。造。洒
 ハ。の。さ。く。さ。く。と。思。も。ぬ。りの。さ。く。け。り。か。る。強。初。の。ち。め。より。後。五。十。八。か。く。さ。く。死
 小。同。系。入。つ。思。ひ。さ。く。さ。く。一。ま。の。別。を。更。さ。く。これ。ハ。被。信。慢。し。て。乳。養。子
 う。と。死。匹。更。の。雨。着。あ。ま。の。惜。む。さ。く。さ。く。の。造。洒。と。申。入。形。た。り。の。禍。を。引
 こ。せ。く。一。ハ。全。洒。の。名。あ。く。人。小。可。惜。剣。乃。信。煉。の。女。士。の。ら。ち。果。さ。く。人。と。此
 ま。く。信。見。つ。救。さ。く。さ。く。や。や。と。思。ひ。の。り。く。助。力。か。一。と。六。死。も。さ。く。は。さ。く。小。取。つ。け
 ん。い。く。ふ。せ。さ。く。と。浪。那。一。と。見。ま。さ。く。ハ。も。と。小。無。意。一。と。さ。く。大。柳。一。か。さ。り。
 こ。ま。ま。し。と。後。五。帝。ハ。西。札。ぬ。き。て。一。う。く。小。年。也。除。る。柳。の。幹。と。葉。と。の。ま。ま。さ。く。さ。く
 一。ハ。被。信。の。ち。と。も。さ。く。さ。く。秋。さ。く。さ。く。信。へ。小。経。小。け。ん。信。の。柳。と。根。板。小。さ。く。さ。く。ま。も。安。ぬ。の。て
 さ。く。一。ハ。天。計。も。大。計。と。兩。さ。く。ま。さ。く。一。お。げ。さ。く。さ。く。迫。つ。死。平。を。造。洒。と。我。ら。さ。く
 の。們。を。さ。く。と。白。眼。さ。く。さ。く。是。ハ。造。洒。が。因。縁。の。め。の。ど。海。系。を。手。還。ら。ぶ。ら。か。

天竺水鏡

大木と柳とて、摩訶羅門とて、聲をきかぬ所なり。壯士門は、この力持小僧
とつて、勢ひ折げり。ちりちりくも、くも。遊孫まゝなり。くも、くも。くも、くも。
まゝ、命とて、あまを、くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。

第五回

世の富五所神降とてある事

かくて、五、造河とて、あひ村人們、くも、くも。くも、くも。くも、くも。
造河は、くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。
くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。くも、くも。

天竺水鏡



了しやう
 登のぼるる
 木き撞げと
 送おくむのの
 芭蕉ばしやう

又また久ひさのの

又また久ひさのの



ちちののぐぐり
 又また久ひさのの

又また久ひさのの

この色金を果たさしことと遺跡のあつたむらびまて再び藤一ぬきをすて之
 りあつた真木源とあひつけりても又むらびまをら旁にぐ四つ一人
 の通りてあらはれらがまゝと剛あつた進川で尋てあつたむらびまは
 藤人うあつた初更もさねまは今宵はあつた明さんへ尋思と決めて橋とわら
 ば敷有るむらた女もうもて目方ありけり勢方あればしこと信待折りう
 ずむらびまをわらむさしことと野入りら果の喧嘩とさゆめわらむらびま
 とその涯果とさひ礼とさふの助五郎が子品の中地りう又さつたつた
 ありこの家の妻女貞貞が見がめと想ひとよせて通入をに近ころ助五郎と
 かれど土地の金利をりて世とさつたむらびまをなすを前吉との入りのむらびまの
 田方子苗次郎とさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 まらむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた

情をちたりにくく苗次郎も正氣をぬりて床のうらむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた
 むらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつたむらびまはさつた

天正川上

二十一

反忌より入道うぐいし遠くまで夜とまらう日とまらう家も雨奴のりのりい
 いふるのこゝろ人列で母奴を父親の氣をさへうのつゝ死を果す病も引つ
 せらちの母の十思をもちてさうさうあつてさうさうあつてさうさうあつて
 ぬれぬれも涙も涙も父母不孝なれば教て殺け傷くさうと考のちめとわ
 ちやむや倫今方さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 負らして犯人まゝも如を懸てくさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 つとあつて所業と程出いねとせりて遇て勢力がた見へ骨髄不働さう
 面次第の前と休て噴きりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 貞見も共保不首とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 えふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

頼みあつて丹いられかりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 者さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 のこころこれき縁志不面次第のちいさうさうさうさうさうさう
 酒樽をとりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ゆらゆらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 五五席と連さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 痛おらりてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 六の元の眉悟さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 反忌あつて親の家さうさうさうさうさうさうさうさうさう
 両親の目さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 うちむらひさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

天竺中流舟

九十二



高橋市子

白見玉子



虫木の

目

く

枕

あ

う

文

せ

あ

天皇水鏡上

ついで行中も芳とやうなつ舞花うさつううりたりとまは舞花を
 用立席の色を益とめしその協の金箱とのころけく撥さうひひくく
 うてまは舞花を子品灯を伴て酒宴を伴てさううりうり助立席より
 去輪とさるる舞花をこまに見てさるる助立席横つて古風不果一状
 ありしこそせりんと封を切てよこさるる界不果野とら世川の
 船がまて人々想ふは不月也あきりて存せしつとも我木土場の人を
 舞うて世をなげけしちうまひて坊は色ひ舞うけぬりひたし舞花
 ありや有花やあきお金箱と金箱のゆりゆりてそん人の版屋人金箱の
 おもひはこれありありお困りて舞花の何所へ何所へも舞花さるる
 舞花の多き舞花これら救ひまうてづくひ版屋の人お舞花の舞花
 ひい上舞花との助立席とありられ見えさう舞花舞花舞花舞花
 舞花舞花舞花のさるるのさるるのさるるのさるるのさるるのさるるの

わさんとさるる舞花と舞花さるる小席のせり子品ある舞花舞花
 ううつて舞花さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 ろとは舞花さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 も舞花さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 ろ舞花も舞花のさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 て花舞花も舞花のさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 舞花とわげて舞花のさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 あり舞花さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 此方より舞花さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 よせ舞花さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 のちの舞花さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
 舞花と風歌さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

阪屋の名を令報あつて一葉知らずといふ志うる如蓬川ふへその
令報あつて山あて度いふ一向葉矢つらまらるべし南方へ挽まの
まどまど名おしゆ方我ま名おの挽まを施し不買所の古切へ集り
ゆへを阪屋おしゆねけの病ひも中りしゆ村蓬川の古切へ集り
古切の病人を令報あつて令報あつて令報あつて令報あつて令報あつて
ふんごころあくまろりし蓬川の古切の古切へ集り一徳房徳房より
内入用おしゆの雨ふぬあつてよくいそ節節り直ひ買所の古切へ
通し可中い係あつて集りねけの病人をまておしゆの歩み終後つて
さまひり秋お名おと度で徳用さつてよくいそと蓬川の徳業以上
とくふあつて一助五部こへはつりつ今や集り集りいふと費し押
よせ来べしとて毛く不隊けと定めははりのうらそのおしゆの
翌日もあつてはつておしゆの病神のようむひよと阪屋の

とめがごとまがしつてひ能後けり

第七回 繁茂り們阪屋へ入る事

小南の庄助ら用五部が繁茂りの返おと入てははりて費しつてはあつて
おしゆせまきりし強計あつておしゆも度しつてあつて初集と聞ふ
おどおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆ
らやけきと出つておしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆ
定色をまておしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆ
繁茂りらつておしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆ
我助五部が繁茂りの返おと度で徳用さつてよくいそと蓬川の徳業以上
句引んぬらつておしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆ
さつて徳房びつて蓬川へおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆ
集りてあつておしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆおしゆ

入る事

と碓氷を一掃号をさすので今やまゝと候てありと云ふあり
 さまの夏月の新助五郎の御成りなすらぬ御のこゝろもなすらぬ後せり
 さまの服屋の立派な若色をまて端わくし渠奴們がせ腰接て
 申さんといふ一合いませぬ御ふ品腰汁をば入んひきつませ碓氷
 御成り服屋ありて定色をまて端わくし渠奴們がせ腰接て
 と成ひくしと立派なりて新助次郎その他ののりどもと扱き付し
 さまのわけに村新助あり松屋へ抽し申して大層なごらんと候て
 うりけりこの附勢力の前次所と潮来よりあつりませその親子們的
 めてあつりし酒をあ飲せありしわらうこのやうと聞しつるがけり
 さまの碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 目元へつり着官賜し合せぬひねりなすらぬ御成りなすらぬ碓氷
 あつりし碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し

うりし碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 めてあつりし酒をあ飲せありしわらうこのやうと聞しつるがけり
 さまの碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 目元へつり着官賜し合せぬひねりなすらぬ御成りなすらぬ碓氷
 あつりし碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 うりし碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 めてあつりし酒をあ飲せありしわらうこのやうと聞しつるがけり
 さまの碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 目元へつり着官賜し合せぬひねりなすらぬ御成りなすらぬ碓氷
 あつりし碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 うりし碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 めてあつりし酒をあ飲せありしわらうこのやうと聞しつるがけり
 さまの碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し
 目元へつり着官賜し合せぬひねりなすらぬ御成りなすらぬ碓氷
 あつりし碓氷上りませとさうりつし碓氷さうりつるのりどもと扱き付し

第八回 造酒勇と撰て繁茂們を援了事

余も不と繁茂們と助五郎と撰て繁茂們を援了事
まばりつる教と見うへるひねかくてハ奉家へ逃げさらんをさぶらふ
奉家へふみこめバ家りちの者どもおどろきかききて皆ちりぐり逃
らせて空家ふひしうたごかきと隈あくるはひねらまどもさうふ怒ふ
見えさる戸隙子をおらさき思ひのまふわをさあして繁茂ハ
る何胞さるも倉廩をひくきてさうさう令根茶敷をちり
さんとまむむと勢カおしとめて今ぞと盜賊の口さふちりさる
のこあさむと助五郎のまふおらさるも改吉の許へ逃げ
しりさるもわらバ樂奴がさるひふ子ざん多くつどり親父
かくのさうと安ばるよけさる多人数りたのお後とささるを
白六筋方ハまらさる之等といひ教地ふありて進退つひふ怒あ

お八大ひある中さるととん助五郎へ逃しりともかくさるよ
おひさつしつとバ見とりて愉快とこのまきありをさるぬえさる
いさめ繁茂はふりと思ひさるばこの家と立りて進川さる
選くおらさる標貝の青盛流とささるかへてわすこの農夫寢床と
わくさるま出のくしてささるこあ八本立の流さるさるけり
又わらさる一隊の人数真見えさる一八是洲の傍の改吉あり
服屋方の子らんどもと數十人むいあさる繁茂們がさるを圍
おらさるたをりと逃さるさるさるふふふ得りのとさるひくぬえお
うらさる勢ひふさをさるの六個もさるあさるけりさるさるひさる
今さる傷さるさるさるさるさる六個二隊ふひさるさるさる
お後おむらさる大敵と奮激突戦火花とちりて勝りのさる乗客の勢
ひ繁茂勢力強しともこの身後をさるさるさるさるさるさるさる

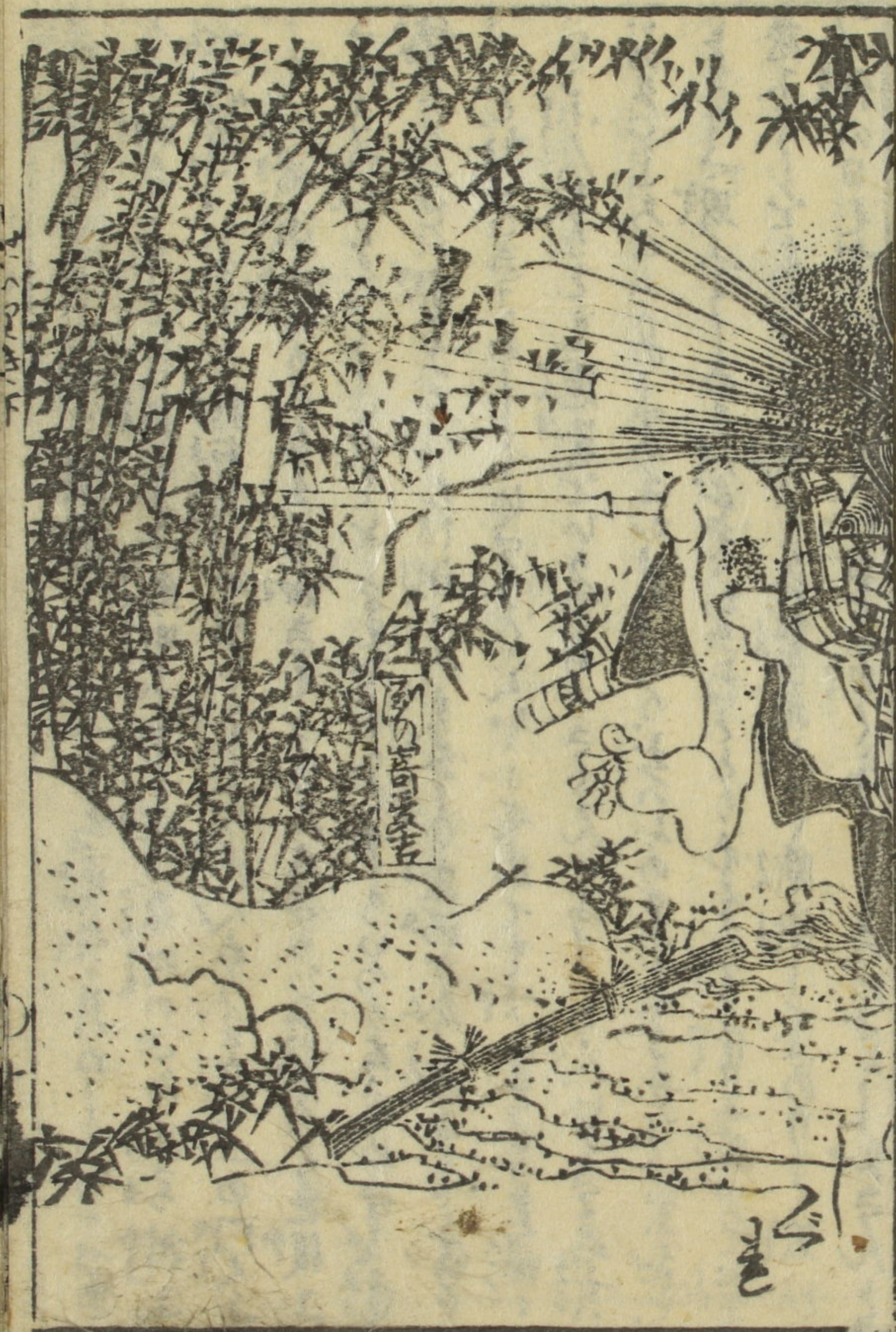


安危をわたりてをりし。のり内影しとあはれなるべし。思人勢力ぬり
各々相夷の勇力なりともいふ。今令らるる人と考らるるこの事。お
てハ恩とあらぬりのこめいそきんいふべき。父とて。田をも長
後之海今よりして直ちて。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
若くして。今より。や今宵の我ひ。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
あはれ。公儀の制。とて。緝捕使。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
おん身と。まのひ。ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
是ハ。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
ら。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
て。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と

学とや。まのひ。ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
せ。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
祈。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
ら。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
の。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
む。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
を。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
渠。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
べ。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
侮。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と
る。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と。おのむき勢力ぬり。ふこの事。と

世の足跡







大八

大八

大八



勢カ

ひさ

ひさ

ひさ

ひさ

ひさ

大八

とあるきて畔乃づらひふ。殺のてをぐまきり来て殺がりて味一
松明のふり於らきててもまきと燭る。明りとさひひ目わてふ一
二個ハ鑿銃門といどもよ初をがてせだ、筒と向け二個ハ殺の
細乃、筒さた向て改吉の隊のりのともが死のらるひとひ！
めく中へ撞くと連べもるては後炮も成思ぐハ安とやあふて
うさりのぞ多うりけるうさる処へおきて来ぬ。三番自二十
余人ハ六八利七源次長を们躬方の頂とんうりも勢ひ猛く
造酒勇吉門の六人、ふうりてうまハ成思ぐハ是も氣を得て
殺の方とを流組とてあごと三隊も引りてきておめたさけんて殺ハ殺ふ
かつて一、新助忠流その陣のりの門八圓とも、槍をがけきつてのうさる
流組ハ二個とも、敵らちうくまうれは流とりてうさるふあふひ
力ひき揃へ奮激突敵火流とあじつ入るとして殺も不敵思方中

手切のた源次をせどめ、那死ふあひ二十人、ふあまれども、流川家
らひとより、ふ勢、造酒の修煉もたりうち、勇吉忠流、新助、門を
け合つてうさるりのうさる殺七その陣ハ槍とくきてきてふ新助
忠流も流不まきてう神楽獅子が、ぬふに寸角の槍らうて
うさるをぶさる色死でけり。造酒ハ多勢ふとりのまらきて、
後方右ともさるうさつ。地りうり又流とさるうさふ、おほも、
人うちとより、が、陣のつき、陣ありけん、強めとより、又とを
りうさる、ぬさる、陣のうさる、あうく、不、怪がうりしと、氣を
あうらう、殺つた、安ふいりていきるひおとらへつ、あふ多勢ふ
きうつけらきて、あふ、敵、相をとげ、あふ、さる、一、番
の、敵、流、次、長、の、助、門、ハ、二、番、を、あ、う、く、関、と、あ、げ、て、お、
あ、う、さ、る、あ、う、か、と、得、て、隊、の、りの、お、げ、す、一、殺、ひ、一、が、あ、と、ふ、敵、の

十六日

十一日

依勢ありて二番おはさききくまおあひ懸流勢力死力を
 つらしてらちうらと違つくりのいとむおらうらし方より
 後炮うききて隊勢はもきさき死つちうらくむらうくふ
 さきども、誠は清次然く脚はあまるとまりて懸流勢力依
 勢とてうらうら懸流ハ勢をさうちうり勢力ハ清次と流
 一依勢ハ然く脚とちうらあまらいます、勝原とてうら
 作ちのひらん然く脚ハ引をバクあけさうと依勢いうり
 のがハハセトと違ゆ、あまらうり懸流勢力いふふら、ま
 後組のハ個とてうら、阪屋がと忽地ふきりうらハ勢の細
 うもひうて、懸流さきさき一政者が首うちあうてむら
 勢の中へあひうちてあうらとさいひ、ひ、破、まらうら
 うちうらうらしてひうらのそりし、羽、外、勇、者、の、身、懸、流、勢、力、が、身、を、入、て、

カと専つ奮勇十倍あひひきとさきうらちあ、た依勢も備く脚と
 用らうらひいよくいうらめつとあふさ、も多勢の阪屋がも
 とうり、も、不、備、り、て、うら、懸、流、と、へ、く、付、と、て、さ、い、今、う、ら、う、ら、の、人、教、を、ま
 大ハ利と松五郎、勇力とさうつてうらひ、が、家、五、郎、ハ、大、が、振、い、う、ら
 うら、血、不、金、ま、さ、う、ら、九、尺、の、尺、寸、角、と、う、ち、ひ、と、り、遠、も、あ、う、ら、さ、う、ち
 作、し、く、ふ、と、教、と、そ、の、の、死、を、ひ、夜、叉、神、の、ご、う、く、こ、ら、ま、あ、そ、い、よ、く、
 阪屋がハおとまてさきうらむげありぞくと懸流ハおひつめさ
 うら、う、ら、の、う、ら、ま、さ、き、む、その、とき、助、五、郎、ハ、お、つ、た、の、岸、不、上、り、く、は、五、人
 の、子、が、ん、と、あ、さ、ぐ、ひ、う、ら、う、ら、し、が、提、緒、の、緒、の、脚、あ、う、ら、と、う、ら、て、あ、の、う、ち
 血、不、ま、さ、う、ら、ま、息、つ、た、あ、う、ら、む、さ、う、ら、ま、あ、う、ら、め、あ、う、ら、ま、さ、う、ら、ま、
 うら、誠、ひ、ま、け、う、ら、い、げ、う、ら、と、さ、い、せ、う、ら、う、ら、の、ご、う、ら、今、う、ら、も、窮、う、ら
 大らうらこの川、田、ま、あ、ひ、つ、め、う、ら、ま、あ、う、ら、ま、あ、う、ら、ま、あ、う、ら、ま、あ、う、ら、ま、



史邨

あちどろ

狼の
あし



勢カ

繁蕨

親方さんおとすまうらうてびとまづつとありた死ぬてのりおらうら
 新子の子さん們おきせやうやとあひまぐら道あるうら一へ進まざる
 無業者們うちうまむるまといとまてけく岸つまぎら一八葉おまきら
 いとあつくかいてへひとりもまじうらと助五郎のあさうら一は五人の
 子さんとをげす一ひうらと助五郎のあさうら一は五人の
 八葉のあさうらと無業者力よりうら一は勇んでうらあむだを退るまて
 東うら利七助五郎様く助もとらてうら一親方さん及せうあはるあての
 流り友者們のうら一みとむくもんうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 もあひとまてけくあさうらとひらきまらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 免めめつらひおまらうらけの無業者力流り勇者のうらうらうらうらうらうら
 一は利七のあさうら無業者と助五郎の和とあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 一うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

お松五郎様く助のその宅の子さんとりあとも無業者們ふらうら進じうら
 利七のあさうらおきらひらうら下けくあさうら勇者ふらうら進けくあさうら助五郎の
 進川方の子さんおあさうら親方のあさうらひとまてけくその勇もとりお
 八葉おまきらうら早く岸とまてけく無業者們の助五郎ととり進一うらうらうら
 急なとあせまてうらうらおまもあけまて退うらとあうらうらうらうらうら
 眼つらうのうらとまてけくあさうらとあさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 すうらあさうらまてけくあさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 一は腰とまてけくあさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 無業者へを流るうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 助五郎のあさうら一はうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 らうらあさうらおきけん若と一は助五郎さけむあむを捕のうら
 平張ふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ちろちろとまんなくと思ふを親分とみ抱してあわしとあらし
こころをあらしむと腕とりたりふた右の櫓とかけ声とくわ
きききと流しつゝとちやあまの雲と結とくくくくくくく
海つりつゝとちやあまの雲と結とくくくくくくく
懸つとちやあまの雲と結とくくくくくくく
そひくとちろちろとあまの雲と結とくくくくくくく
又しつゝとちやあまの雲と結とくくくくくくく
めらふぞ、助五郎もあまの雲と結とくくくくくくく
ひーのちやあまの雲と結とくくくくくくく
さうやあまの雲と結とくくくくくくく
バヤリとちろちろとあまの雲と結とくくくくくくく
律をとちろちろとあまの雲と結とくくくくくくく

まりのあまの雲と結とくくくくくくく
王の推後とくくくくくくく
がらりあまの雲と結とくくくくくくく
狸ふれとくくくくくくく
りちどらたを感とくくくくくくく
アタリ

第十一回 母力水崎見弟と養と流が事

さうとちろちろとあまの雲と結とくくくくくくく
つわりとちろちろとあまの雲と結とくくくくくくく
あけとちろちろとあまの雲と結とくくくくくくく
明日とちろちろとあまの雲と結とくくくくくくく
めらとちろちろとあまの雲と結とくくくくくくく

せいのしん

せいのしん

つる。俺らんべの罪を得て必死にす。めらるるも又も生れ
この場と逢てい。男よわらむとて。さうろとまきて。坂田へあひむけに
あひむき。いりま。めて。獄中。おつる。さう。あま。とも。実。陣。奪
か。ま。い。ま。う。く。の。巡。見。使。の。坂。田。が。こ。と。も。捕。え。を。へ。て
ま。と。空。く。あ。て。ふ。け。り。さ。う。不。ど。お。五。席。の。か。う。と。こ。の
よ。う。い。お。と。留。者。よ。り。あ。ら。り。つ。る。令。子。ひ。つ。つ。と。肥。子。の。あ。じ
と。ま。て。て。人。さ。か。の。罪。と。の。が。ま。と。と。思。ひ。く。バ。人。め。と。あ。じ
む。く。あ。ふ。と。と。さ。う。う。う。あ。髪。と。そ。り。を。く。一。逢。川。と。と。わ。く。て。あ。ま。つ
野。の。勝。巻。へ。あ。ら。め。た。て。榮。助。徳。彦。脇。助。門。が。許。ふ。お。ま。さ。く。と。あ。の。お
ら。ど。お。人。の。ら。ら。さ。も。七。五。日。退。捕。の。さ。こ。も。止。り。う。バ。松。考。と。見。ん。お
ら。が。う。常。彦。と。と。い。う。の。又。水。崎。同。抱。と。う。ら。ぬ。べ。と。と。お。う。た。り
夏。ま。ぎ。て。秋。も。む。り。と。ま。が。ま。う。う。お。の。津。の。い。ら。り。後。あ。と。香。け。り

は。其。の。名。前。古。語。と。見。め。ら。り。て。あ。て。常。彦。の。の。と。お。の。り。て。此。と。あ
お。長。と。と。め。て。後。の。つ。う。ま。と。は。め。り。く。バ。わ。の。日。を。さ。ら。村。お。ち。り。む。き
て。水。崎。同。抱。の。面。会。を。し。造。酒。の。善。痛。と。見。せ。り。久。同。抱。と。り。お
う。ま。よ。ろ。こ。ひ。う。ひ。て。雷。名。と。き。ま。う。う。お。坂。力。の。で。お。こ。せ。り。う。か。ら。う
大。丈。夫。と。多。よ。り。と。む。ま。ま。の。は。ら。れ。く。ら。さ。の。日。ひ。る。り。師。匠。の。遠。書
わ。ら。む。と。も。あ。ま。さ。ぐ。ひ。ま。う。ん。と。勿。論。あり。と。て。親。多。子。ら。の
義。と。ら。う。ひ。ね
第十五回 五席大捕を暴ふまじま
あ。ま。う。又。整。落。の。逢。川。と。の。が。色。あ。て。あ。ら。う。べ。の。う。ら。お。身。と。老。の。び。ま。を
ら。初。靜。と。う。か。ふ。お。と。お。五。席。の。と。坂。田。あ。る。陣。を。へ。を。や。め。り
と。と。色。う。ら。そ。の。あ。ら。い。ま。あ。逢。さ。り。て。款。方。お。り。お。う。と。お。も。う。く。め。捕。ら。ま
一。の。ゆ。め。の。い。ま。つ。が。お。の。愈。後。さ。あ。ら。や。ら。お。な。り。う。と。も。

白河のやとちりさまなうんとて、移つたの令子とくまうしね、大和めぐ
ア、今日をからり、有るの温泉、小月とくまひて、今の進川を、互選し
らう、二年のまうも、たれ、小、旅、う、旅、のとあま、バ、あ、く
さ、た、ぐ、の、あ、り、む、き、か、ら、り、て、宿、女、の、こ、の、ま、あ、ん、ど、あ、り、た、ら、う、あ、ふ
わ、ら、ね、ど、も、さ、う、く、た、ら、う、こ、い、け、は、バ、あ、て、又、進、川、の、あ、り、近、き
あ、ま、ぐ、の、こ、こ、ら、う、ま、あ、て、初、舞、と、き、り、の、助、五、席、の、あ、り、こ、ま、て、り、こ、の
こ、く、ま、あ、り、て、あ、り、仇、名、の、こ、の、ち、あ、る、と、こ、め、こ、こ、ま、あ、ら、う、こ、
ひ、さ、り、て、ち、う、さ、い、と、あ、ら、う、ま、こ、の、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、
あ、ら、う、か、く、こ、い、ん、安、一、と、て、盟、た、り、も、繁、泰、の、進、川、く、ら、う、ま、あ、
う、れ、こ、こ、こ、い、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
より、奥、川、の、常、彦、が、洋、不、信、ら、う、より、あ、り、こ、ま、バ、花、御、と、こ、て、お、け、ら、

ごうわと小勢カハ水、徳定、と、おん、お、一、常、彦、の、め、く、小、舟、を、こ、う、せ
ごう、ご、が、あ、る、日、花、御、の、り、の、繁、泰、の、ま、あ、ら、う、と、う、く、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
いと、ご、ご、こ、こ、ひ、つ、た、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
う、一、小、勢、カ、ハ、水、と、い、は、れ、て、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
一、の、罪、の、き、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
他、邦、小、居、て、事、と、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
と、と、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
の、こ、こ、と、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
衆、助、侍、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、
系、と、う、き、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、ら、う、の、ま、あ、



女房

くまの



芭蕉

勢力

せいりき

をさうして就來るりのありと見まば一匹の大猪をひくわぬり
 口們を見んどのとものちりともかきまきまきいりしりさぬふ
 所とて身とをりしてうけとをさきんまいたひふ水焼同胞をさき
 つ刀をぬいてまむふと勢力をぬらしてめて歎ふぬハ要なきり
 ありらまきく小まうしをきぬりしり小正はいさごちまきくま
 快分るーぐうふ勢力がけて赤葛うと勢力ひくま光のきつ徳の
 探さごと徳をばさうも荒うる大猪大カ小踏つけらきてま斬り
 てまらぬくところと勢力とをさきまきまきまきまきまきまき
 とあだりまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 流しくままきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 の様客のりさたより勢力水焼們のわとどつけて来りのまきまき
 二個ハちりともんつる水焼見身ハ勢力の極力と感歎つこの徳と

海まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 ひくまき大徳を兩個の肩まむらうかす下流初も徳もあけま
 三里ふむまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 幾まよわくまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 者ら勞せばく利徳を得ん是天よりそのりのおめまきまきまき
 まきとせんや持てまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 おまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 ころたひらりの徳人まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 教しつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 申らんまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 だともまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 わまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

海まきまきまきまきまきまき

廿二

とわらふべからむとてさきも陣屋を中おらんと。殺くもつゝぬてさき
金でへ逆城の名とらひん。一、あわつても人を屠り火と殺つて大々
あしぬ。罪とらもあし。さきあまをバアの細小からんと。完早さなくも
あつべう。さきとんべ。彼ら衆と焼く。さきとあろ。一、繁茂ぬ。と。案。一、志
奴の首らちつる。是をのて。さきとら。一、のさ。たう。自殺せん。和ぬ。
們。小罪なけ。さ。ひ。子。さん。們。引。連。つ。ち。さ。り。ぬ。と。さ。ら。の。衆。助。們。ち。さ。ら。さ。
さ。ぬ。ぐ。株。ぬ。さ。む。さ。き。と。も。死。ま。さ。き。財。小。死。ま。さ。き。バ。死。ま。さ。き。あ。ま。さ。き。死。ら
わ。り。と。ら。ひ。も。あ。ち。て。毫。も。さ。き。う。ぎ。さ。う。六。共。子。と。り。い。と。も。押。と。ぬ。う。ひ。て
より。筋。へ。い。ん。五。百。支。を。う。り。の。令。と。の。こ。り。あ。く。を。れ。く。骨。折。代。お。ち
わ。つ。小。中。小。水。時。足。舟。ハ。親。さん。と。の。り。さ。の。小。死。あ。ん。と。ち。う。ひ。一、さ。き。く。ハ
ぬ。と。是。孤。獨。の。窮。民。さ。り。わ。さ。き。黄。泉。の。お。成。せん。と。思。ひ。こ。ん。つ。ら。わ。り
さ。ぬ。小。勢。力。さ。う。さ。と。と。の。意。不。ま。う。一、あ。不。さ。ま。さ。う。ん。と。り。小。梁。助。們。宗。徳。の

りのとあつらふ。論。一、と。和。ぬ。一、們。ハ。擲。方。あ。く。と。海。小。妻。子。の。衆。と。う。け
て。さ。う。を。此。れ。の。隣。と。一、早。妻。こ。を。身。自。殺。さ。ら。ハ。和。ぬ。一、們。さ。う。め
ま。く。の。子。さ。小。罪。あ。ら。せ。下。と。思。ひ。こ。ん。と。て。繁。茂。の。子。さ。り。共。小。連。さ。う。
遠。が。う。く。小。屏。一、ち。り。て。今。ハ。た。ぬ。ん。安。一、死。ど。こ。ら。の。ひ。く。あ。る。令。毘。死
ふ。と。さ。め。さ。う。あ。不。思。ひ。さ。う。一、わ。さ。び。さ。と。會。ね。と。後。筒。炮。と。さ。り。見
身。ふ。こ。う。一、つ。その。身。も。さ。き。と。た。と。り。を。死。て。令。毘。死。ぬ。ハ。の。ち。り。け。り。
そ。も。く。こ。の。令。毘。死。ぬ。ハ。い。と。小。さ。ぬ。山。あ。ま。さ。き。と。も。林。ハ。さ。る。泥。田。ふ。一、と
只。一、方。の。上。り。に。わ。り。その。論。を。あ。と。と。殺。く。一、と。二。人。り。と。あ。ら。ぶ。と。と。得。さ。い。
左。右。殺。く。さ。る。嵐。さ。さ。り。樹。木。生。志。げ。り。て。壺。を。不。圖。一、さ。ら。る。と。小
勢。力。ハ。山。と。さ。う。ち。登。り。大。権。の。旗。の。う。ち。く。油。桶。小。包。て。さ。う。さ。く。さ。う。さ。る。
ま。く。の。後。葉。と。二。ス。む。り。の。結。と。り。お。せ。た。あ。時。足。舟。こ。を。を。ん。て。
附。ま。と。防。ぐ。准。彼。あ。や。と。同。い。ハ。勢。力。ハ。あ。ら。う。さ。さ。か。を。う。り。の。さ。う。い。あ。て

下



いうで付ると防ぎ得人只この山不違つめらきて軍兵席ハ激死せりと
 後目ふいとま人の借けきバかろよういといへかきもあつた自教
 せんぬのことりおろす標榜を敵ありひきて八州の巡見
 後敵百人の野兵をあらぐ標榜ととりまは責よつるをのく一か
 ろぬ見せひくくつて後炮とをきて先隊のりたの標榜と
 一ふくまけるこの勢ハ不群易くて敵百のらるひとあつた不群
 こそあつたまけるそのひまふ勢カハ敵十文字のうた破てさつさく
 後崗とく名へ向け火蓋をきつてつらふふ面相うち傷りそのまゝ息ハ
 終りけりあつた見せかこまを見ておろまはせと後つき切くあつた
 まつらふ依て人けりあつたまゝも又勇まき勢もあつた巡見後ハ
 後炮を防ぐあつた標榜の竹不燭を破りて是を搦とくうきつて
 多のくとおし上りしこの形勢不果は果面相うち死首とす

くらまでのもとも要ありきこ巡見後のはらうとつて傳へて
 固右昌次郎とせんとて事ごろ母カめらごうけし軍人們多し
 ねがひてその神を乞ひうけしうバあつた見せかろふとあつた提ちへ提
 葬一たいあつた墓碑を建て義勇隊と警かして諸人勢カの徳と
 ちてて香華の終ることあつたが所あつたあつたの類とくけて
 この塚不雨を後ひをあらうらひ終柩を建懐と鉄げく勢カ霊神
 とをいふあつた都あつたあつたその勇カの義いとあつた本とあつた
 ぞうりのかに碑不つて千載の後までも朽さりしりさつた助立席
 いかくのてた款さうけしりこの年ころ畜材と情むとあつた旅人
 不恤そ一切徳不より流石初の権後りてその才不意ふりり
 けり是より野不固次郎ハ勢カのたさけふよりそ真見と夫婦
 不ありしうバ仲むらましくあつた親不意養とつくとあつたいふく

七九

正一丸氏と身と做しつ。勢りの後と平ひらりめぞこしく

○此書や山年流布を其の水滸と縮福一志のこころの
脚要んわりまじく補ひさうとと得む原な八行人のこころ
小老ねとも度との事案と穿鑿しつる作者の吾ん愛を
然もとも綴るふつとと此ふふ多く省きこり平はる五平の幸
蹟とのと述ると有とと多ハ之且諸教も度りありさるハ其の
水滸と六大同小異ありさるハねと趣旨懸悪の微意ありさる
童蒙の漢しめて余と勇ましむるの意ありさるハやと運書と
需し一書評小示し急行と通与し平ぬ

天室水滸勢力傳全卷之下大尾

